

「木」を活用した首都圏及び海外への販路開拓

支援機関 松山商工会議所 支援内容 販路拡大・販路支援 支援区分 経営革新

有限会社 宮岡製箱所

事業者概要

社名／有限会社 宮岡製箱所
 代表者名／代表取締役 宮岡 陽至
 業種／木箱・木製品製造業
 所在地／松山市枝松六丁目2-6
 資本金／5,000,000円
 設立／昭和26年4月1日
 従業員数／18名



支援に至る経緯

有限会社宮岡製箱所（以下、「当社」という）は、木箱の製造を主に営む創業66年の事業者。新しい製品の販路開拓を展開するため、松山商工会議所（以下、「会議所」という）のビジネスマッチング事業を利用したことをきっかけに支援をスタートした。

支援内容

1. 専門家による経営相談

新製品のデザインやコンセプトを明確にするため、会議所に設置するよろず支援拠点の相談窓口も活用し、専門家の支援を受けながら、木製品の開発や販路開拓のイメージを具体化した。特に、ワイン等の贈答用に使用する「ボトルツリー」に関して、デザイン等のブラッシュアップを行うなど、製品化に取り組んだ。また、ホームページや販促パンフレットのキャッチコピーも見直しを行った。



専門家による計画策定支援

2. 製品の顕彰

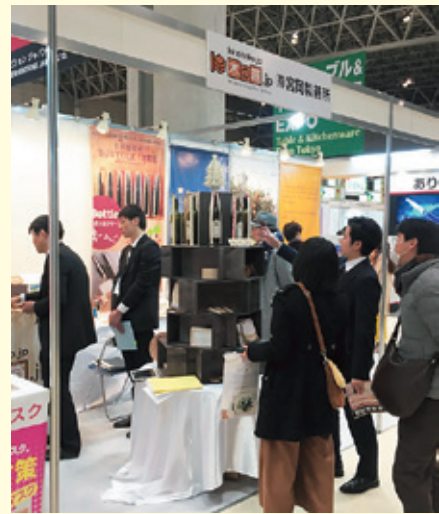
製品化に目処がついたことから、新製品の周知を図るため、会議所が実施する新製品ブランドコンテスト「NEXTONE」に応募。応募資料作成や審査員へのプレゼンなどを通して、あらためて、コンセプトなどの見直しを行った。コンテストでは優秀賞を受賞したことから、マスコミ等へのプレスリリースなど広報支援を実施した。

3. 販路開拓の支援

域内販路を開拓するため、会議所が主催する「会員間ハイブリッド商談会」に出展。域内の大規模事業所や中小企業へのビジネスマッチングを行った。また、国の伴走型支援事業を活用し、海外販路開拓の専門家による展示会等での製品の展示方法や海外販路の可能性について販売戦略の作成に関する支援を行った。あわせて、平成30年1月24日～26日まで、幕張メッセで開催された「国際雑貨EXPO」の会議所ブースに出展。国内外のバイヤーとの商談を行った。

支援の効果

支援により、「ボトルツリー」のブラッシュアップやホームページやパンフレットの改良につながるとともに、販売戦略の構築に至った。具体的な販路開拓については、域内では2件の成約があり、取引が継続している。また、国際雑貨EXPOでは、大手自動車メーカーをはじめ、約300件と商談を行い、現在10件が商談中となっている。また、商社を通して海外輸出に関する引き合いもあり、海外への販路開拓にもつながった。これにより、首都圏や海外で木製品のニーズが一定度あるとのマーケティングにもつながり、今後のさらなる販路開拓の可能性を見出した。さらに、当初より若手社員の人材育成を課題として持っていたが、展示会などを通して、社員が自発的にミーティングの機会を設け、積極的に意見出しをするなど、人材育成にも良い効果が見られた。



国際雑貨EXPOへの出展

今後の展開

一定度の販路開拓には成功したが、新たな事業の柱とするためには、さらなる製品のブラッシュアップとマーケティング、販路開拓が必要となる。そのため、会議所の専門家を活用しながら、現在の引き合い先の販路を太らせるとともに、首都圏や海外への販売戦略を明文化し、展示会等への取組みを積極化する。また、商談会等を通じて、若手社員の人材育成にも注力する。

事業者の声

松山商工会議所の支援は以前に比べ変化しており、支援の幅が広がったように感じます。実際に当社の社員も会報誌から積極的に情報を取るようになり、自発的にセミナーに参加するなどの変化もありました。何より今回の取組みを通じて、若手社員の意欲向上を図れたことが会社に良い変化をもたらしており、その機会を得ることができたのは非常にありがたいです。



代表取締役 宮岡 陽至

支援者の声

宮岡社長と接点を頂いたのは、ビジネスマッチング事業の参加からでしたが、首都圏展示会への出展などの取組みを通じて、自身の成長にも大きく繋がるご縁であったと思います。

引き続き、販路開拓を目指す企業様に寄り添いながらきめ細やかな支援に努めて参ります。



経営指導員 永原 和弥